

SKIP AND JUMP

written by HADEYA

GOOD MORNING

1

目覚ましのアラームで朝が始まる。退屈、極まりない一日が。
朝食を取り、電車に乗って、授業を受ける。友達と馬鹿話をして再び電車に乗る。

今、俺は青春の只中にいる。時間は飛ぶように過ぎて行く。
四季は物凄いスピードで移ろい、正月の朝を迎える。
気付けば、高校二年。このまま大学生になるだろう。
俺は将来が見えている。未来の俺は東京ドームのスポットライトを浴びている。満員の聴衆を前に。
女性ファンに囲まれ、サインをせがまれる。そんな俺は輝いている。

事実、俺は何も考えていない。生きる事に懸命だ。
七転八倒、不撓不屈。その事は俺が生きている事の証明。人生を謳歌し、日々を全力疾走している事の揺るぎなき証。

君は言う———現実を見ろ、と。俺は思う———現実なんか見たくない、と。
夢、追い求め、突っ走る。信じ、恐れず、突き進む。その重要性を俺は問いたい。
夢のない人生に何の魅力がある？ そんなモノ、具のない味噌汁のようなモノだ。

大人になんかなって溜まつか。そう、若者の寝言かも知れない。けど事実だ。紛れもない事実だ。
いつまでも俺は青春を謳歌していきたい。その想いを俺は否定できない。させないし、されたくもない。

そんな俺は輝いている。君も、あなたも輝いている。
人生は続く。限られた時間の中、力の限り生きる事。それこそが我々の使命。

俺は負けない。逆境にも熱狂にも。喧噪と挫折にも。
俺は負けない。決して———

*

「行って来ます」
ローファーを履き、自転車を漕いだ。満員電車に揺られ、授業中は寝て過ごす。
後は野となれ、山となれ。

馬鹿話をして盛り上がって、バタンキュー。夢の中、愛しの本命天使と会い、優美な愛を紡ぐ。
そんな俺はドンキホーテ。B29戦闘機に水鉄砲で挑む、チャレンジャー。
夏。信じて疑わない夏。
デモテープをレコード会社に送った。合格すれば、一発デビュー。不合格なら……もう一度、挑むまで、だ。

掛かって来いよ、人生。俺は絶対に負けないぜ。
絶対に、絶対に負けないぜ。

青春を謳歌しよう。人生はいつだって青春なのだから。
アラームが鳴った。さあ、今日も一日が始まった。

羽ばたこう。輝ける未来へ。鮮烈な一日を描こうじゃないか。OK LET'S GO!!!

ドアを開け、我が家を後にした。今日はどんな一日になるだろう。

たった今、俺は未知の惑星へ降り立った。この興奮が溜まらない。このスリルが溜まらない。
元気一杯、俺は生きる。今日と言う一日を力の限り生きる。

頑張ろうぜ。(続)

SPOT LIGHT

1

「で、愛しの本命天使はどうなったんだよ？」

コロッケ・ライスを頬張りながら吉澤が尋ねた。俺は……溜息を吐いた。食べ物を頬張る気になれない。一応、食べてはいるが。

「……神保町駅でラブレターを渡したんだ」

「で？」

駅構内——スレ違い様、彼女に声を掛ける。

「す、すみません」

彼女……キュートな本命天使が立ち止まった。訝しげに俺を見る。両手でラブレターを差し出し、ストレートに告白した。

「ラブレターっす！ 受け取って下さい！」

吉澤が尋ねる。コロッケにソースを掛けながら。

「結果は？」

「結果は——」

「御免なさい。ラブレターは受け取らない主義なので」

右手で髪を掻きながら本命天使が告げた。告げながら足早に去って行く。

呆然と修三は彼女の後ろ姿を見送った。バラードが聴こえる……気がする。哀愁のバラードは確かに耳元で聴こえている。気がする。

イヤホンを吉澤に差し出す。

「……これが、その晩に書いた曲」

吉澤がイヤホンを装着する。再生ボタンを押す。激しく切ないメロディがイヤホンに流れる。

「お、いい感じのイントロじゃん？」

「自棄になって、一気に作曲したんだ。ありったけの想いを込めた」

ドラムが激しく乱打される。歪んだディストーション・ギターのリフ。そのサウンドは激しく、そして切ない……。

走った。夜の海岸を。全力で。意味も目的もなく、突っ走った。

ギターでコードを奏でる。部屋の中、空虚な心と共に。

パソコンのディスプレイにドラム・パターンが刻まれて行く。黙々と地味な作業が続く。

海岸に朝日が昇る。朝日で心が浄化されるのを感じる。

——歌う。ありったけの想いを込め。歌う。ありったけの情熱を込め。

毎日が物凄いスピードで過ぎて行く。毎日が劇的なドラマを描き続ける。

破壊と再生の毎日をサバイブする、俺はサバイバー。失恋など乗り越えて見せる。俺は負けない.....決して負けない.....。

*

その晩、俺たちは楽屋にいた。アシスタントが部屋に入り、俺たちの出番を告げた。

「派手に決めようぜ。劇的なデビューを飾るんだ」

吉澤が言い、「ああ」と当たり前のように答えた。ギターを手に楽屋を後にする。フロアを歩き、ステージへ向かう。

毎日がライブだ。毎日がステージだ。

今、俺はステージにいる。満員の観衆が俺を出迎えている。

渾身の力で右腕を振り下ろした。ギターを掻き鳴らし、派手に演奏を始める。スポットライトが一斉にステージに降り注ぐ。

毎日がライブだ。主人公は、君だ。

ライブは続く。いつか見果てぬ世界へ降り立つ為に。さあ、新しい一歩を踏み出そう。

君だけの人生をブッ飛ばせ。人生は夢と冒険のライブ・ショー。恐れず、気高く生きよう。

派手に決めようぜ。レッツゴー！

*

退屈な日常と、そこに潜む輝き。人生は青春だ。いつだって失敗の連続だ。それによって人は学び、成長を遂げる。

いつの日か見果てぬロマン。それを獲得し、君は輝くだろう。

この小説は傑作だ。その真価が分からないなら君は<生きる>とは何か分かっていない。

君がこの小説の素晴らしさに気付く事を願っている。(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

口座名義 モリカワ ケンタロウ
三井住友銀行(店番号**232**) 普通口座 口座番号:**7342872**